１会議名　　総務・産業建設常任委員会協議会
２日時　　平成２８年６月１０日（金）
　　午前１１時２２分～午前１１時３６分
３場所　　第２・第３委員会室
４出席議員　〈委員長〉宮川　隆、〈副委員長〉鈴木麻住、
　　大野慎治、相原俊一、木村冬樹、堀　　巌、関戸郁文
５欠席議員　なし
６説明員　　総務部長　山田日出雄、建設部長　西垣正則、
　　協働推進課長　小松　浩、同統括主査　小﨑尚美、行政課長
　　中村定秋
７事務局出席者　議会事務局長　尾関友康、同主事　坪内裕紀
８委員長あいさつ
９総務部長あいさつ
１０報告事項
（１）デマンド型乗合タクシーの利用促進の取組について
　協働推進課統括主査より別添資料をもとに説明が行われた。
堀　　巌委員：現状の 30 人程度という箇所だが、実績の表を見ると 29.5 になっている。これは、実証運行期間も含めたものではないか。本格運行だけの数字ではこの数字にはならないのではないか。
協働推進課統括主査：おっしゃるとおりです。実証運行期間の含めた平均の利用者数となっています。
堀　　巌委員：最初は、無料チケットを配り、分母の割合が大きいので、他で説明するときは、除いて本格運行から算出した方がいいと考える。
　また、さくらの家からだと言われたが、表を見ると出発が一番多いのは南部老人憩いの家である。しかし、これだけではわからないので、何時にどこへ行くのが多いのか。
協働推進課統括主査：何時にどこへ行くというのはお答えできませんが、なぜ南部老人憩いの家にしなかったかというと、南部老人憩いの家に行かれる方はグループを組んで決まった曜日に皆さんで声をかけあって利用されています。その方々のところに置くというよりも違うところを開拓していくため、さくらの家にしました。
大野慎治委員：自宅以外に乗降場所として使われている場所があるが、この資料では、どこの地区の方が一番利用されているのかわからない。地区別

の利用者がわかる資料がないと分析できない。どこの地区の方の利用が多いのかわかる資料がほしい。また、平成 27 年度１年間だけでもよいので、上半期、下半期、１年間の実利用者数のデータがほしい。

宮川　隆委員長:コンビニクルのシステムで出せるのか。手作業になるのか。

協働推進課長：現在、デマンド交通事業で使用している予約システムのコンビニクルでは、住所での集計ができない状態になっています。手作業の集計は可能であるので、少しお時間をいただきまして、必要でありましたら、私たちも今後の分析に利用できるように取り組んでいきたいと考えておりますので、検討させていただきたいです。

大野慎治委員：あまりにも大変であれば、どこか抜粋した１カ月でも構わない。

宮川　隆委員長：以前に聞いた話では、地図上のルートを線で結んでいくと濃い部分が出てくるというシステムがコンビニクルにあると聞いた。

大野慎治委員：私も聞いた。

宮川　隆委員長：数字として出なくても、画像として見られれば移動頻度の多いところわかると考える。視覚に訴えかけるということも少し検討してほしい。

木村冬樹委員：今回、さくらの家を出発する便を作るということで、１つの試行としてどのようになるのか見てみたいと思っている。しかし、市の裁量で試行錯誤できなく、公共交通会議に諮らないといけないというのは難しい。例えば、乗合率を増やすということで言えば、ゆとり時間を延ばせば延ばすほど、乗合になる可能性があるということだが、公共交通会議に諮らないと変更できない。市が裁量を持って、もっと試行錯誤はできないのか。

協働推進課統括主査：ゆとり時間については、現在設定されている時間を延ばすと、市域が狭いことから、行って帰って来て新しい人を乗せる方が効率がよいです。いろいろな検証を行いましたが、現在の時間がベストであると考えています。公共交通会議に諮らないといけないところは、乗降場所など別のところになるので、諮りながら行っていかないといけないと考えています。

（２）その他

①政策提言について

宮川　隆委員長：まだ、文書としてはもらっていないが、先ほど口頭で２、３点の意見をもらったので、文書にまとめて委員に諮り、了承を得たなら

ば、　最終日に提案する流れを考えている。まだ、最終日までは日にちがあるので、より具体的な委員会として政策提言に結びつくようなテーマを取り上げたいと思うので、協力をお願いしたい。（了承）

１１その他

なし。